

# 茨木工業

1

### 幅広く供給

「繊維強化プラスチック(FRP)のいかなる何でも任せて」と、茨木工業社長の豊留永久は自信を見せる。「FRP製品は中の繊維によって製造元が分かれていくことが多いが、うち

はガラスとカーボンのどちらも対応できる」のが理由だ。「FRPを総合コンサルティングできるのが当社の最大の強み」といふ。

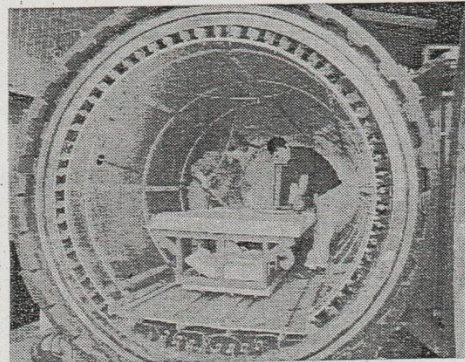
船舶部品や鉄道車両部品、産業用ロボットのアームなど、同社のFRP製品の供給分野は幅広い。手作業によるウェットレイアップと装置を用いたオートクレープの加工方法も使い分ける。用途に応じたさまざまな製品を生み出している。



## 航空機分野参入で羽ばたく

### 中堅・中小・ベンチャー

### 繊維強化プラ全般に自信



#### 高い意識

あらゆる分野のFRP製品を手掛けてきた同社が、現在視野に入れているのが

「高い意識」を追求する。SQ100」を取得見込みであるに加え、2011年には国際特殊工程認証システム「Nadca」

オートクレープ(ナドキャップ)の認証を目標しており、受注に向けて準備を整えている。

航空機産業への取引口を獲得し、部品についても引き合いが来るようになった。

「航空機産業参入に向けて取り組むことで、社内全体の空気が変わった」と豊留は語る。航空機産業は、工程管理や品質の安定が徹底して求められる分野。参入に必要な認証を取得する

きないか「10年すればよくなった。10年に入ってから、ウェットレイアップとオートクレープに続く第3の製造法として、熱可塑性樹脂を使用したFRPのプレス成形の研究に取り組んでいる。航空機部品をはじめ、自動車部品やスポーツ用具などの量産に対応できる。新分野開拓を機に、茨木工業は大きく羽ばたく」といふ。

#### 管理体制も向上

09年末に第2工場(大阪府摂津市)を、従来の約5倍にあたる延べ床面積約1000平方メートルに拡張。製造途中の製品を工程ごとに在庫管理するスペースを確保するとともに、設備の運搬がスムーズに行えるようにした。大型製品の受注も多いため、それまでは傷付けられないように動かすのに時間がかかっていた。「製品の工程間の移動が楽になり、作業の効率化につながっている」(豊留)。社内

▽社長＝豊留永久氏▽所在地＝大阪府茨木市野々宮2の11の6、072・6332  
▽48001▽従業員＝46人  
▽資本金＝1000万円▽売上高＝5億円(11年3月期見込み)▽URL＝www.w.frp-ibaraki.co.jp